

テーマ：冬から春へ

まだまだ寒い日が続きますが、2月4日は立春。春も少しずつ近づいてきています。そこで今回は、冬から春へ移りかわるこの季節におすすめの本を紹介します。

最初に紹介する絵本は、『はなをくんくん』です。雪がしんしんと降りつもる静かな森の中。動物たちはそれぞれの居場所で深い眠りについています。ところが、あるきざしで目を覚ました動物たちが“はなをくんくん”させながら、いっせいになにかをめざして走りだします。あたたかな春を待ちわびる動物たちの喜びが伝わってきます。

なおいに敏感なのは動物たちだけではありません。『おひさまパン』では、寒くてくらい日が続く中、おひさまがこいしくて、パンやさんはおひさまのようなパンを焼きます。元気のなかった動物たちは大喜び。そしてかくれていたおひさまも動物たちのにぎやかな声とおいしいにおいにさそわれて顔をのぞかせます。口にすると心がうきうきするようなあたたかさにつつまれるおひさまパン、食べてみたいですね。

動物たちは季節の変化を音からも感じとります。『ぼとんぼとんはなんのおと』では、冬ごもりの穴の中、この冬生まれたこぐまたちは、はじめて聞くいろいろな森の音に興味深々。おかあさんぐまがその疑問にやさしく答えてくれます。音が冬から春への変化を告げ、こぐまたちははじめて穴の外へ出ていきます。

さて、春を待っているのは、動物たちだけではないようです。『はるさんがきた』では、冬の主演の雪たちが春を待ちわびています。どうしてかって？ 雪が降りつもと、地面の下のほうにいる雪たちはきゅうくつで重たくってどうしようもないからです。“はる”がくると自由になれると聞いた雪たちが躁りひろげるおはなしです。

春とともにあかちゃんがやってくる！『ねずみのオスカーとはるのおくりもの』では、まだまだ寒い冬の中、生まれてくるあかちゃんのために奮闘するおにいちちゃんねずみのオスカーの活躍をえがきます。

『ムーミン谷の冬』では、11月から4月まで冬眠するムーミンが、なぜか冬の真ただ中目を覚ましてしまいます。はじめて見る冬の世界。ママもパパも冬眠中。親友のスナフキンもいません。ムーミンは心細い思いにかられながらも、冬の世界で生きるいろいろな生きものたちと出会います。はじめは冬になじめなかったムーミンが少しずつ冬を受入れて、やがてあたたかな春を迎えるおはなしです。

紹介した本

●絵本

『はなをくんくん』

ルース・クラウド文 マーク・シーモント絵 きじまはじめ訳 福音館書店

『おひさまパン』エリサ・クレヴェン作・絵 江國香織訳 金の星社

『ぼとんぼとんはなんのおと』神沢利子作 平山英三絵 福音館書店

『はるさんがきた』越智のりこ作 出久根育絵 すずき出版

●読みもの

『ねずみのオスカーとはるのおくりもの』

リリアン・ホーバン作 みはらいずみ訳 のら書店

『ムーミン谷の冬』トーベ＝ヤンソン作・絵 山室静訳 講談社